

6 - 9 九州中・北部の地震活動 (1994年5月~10月)

Seismic Activity in the Middle and the Northern Kyushu District (May-October 1994)

九州大学理学部 島原地震火山観測所

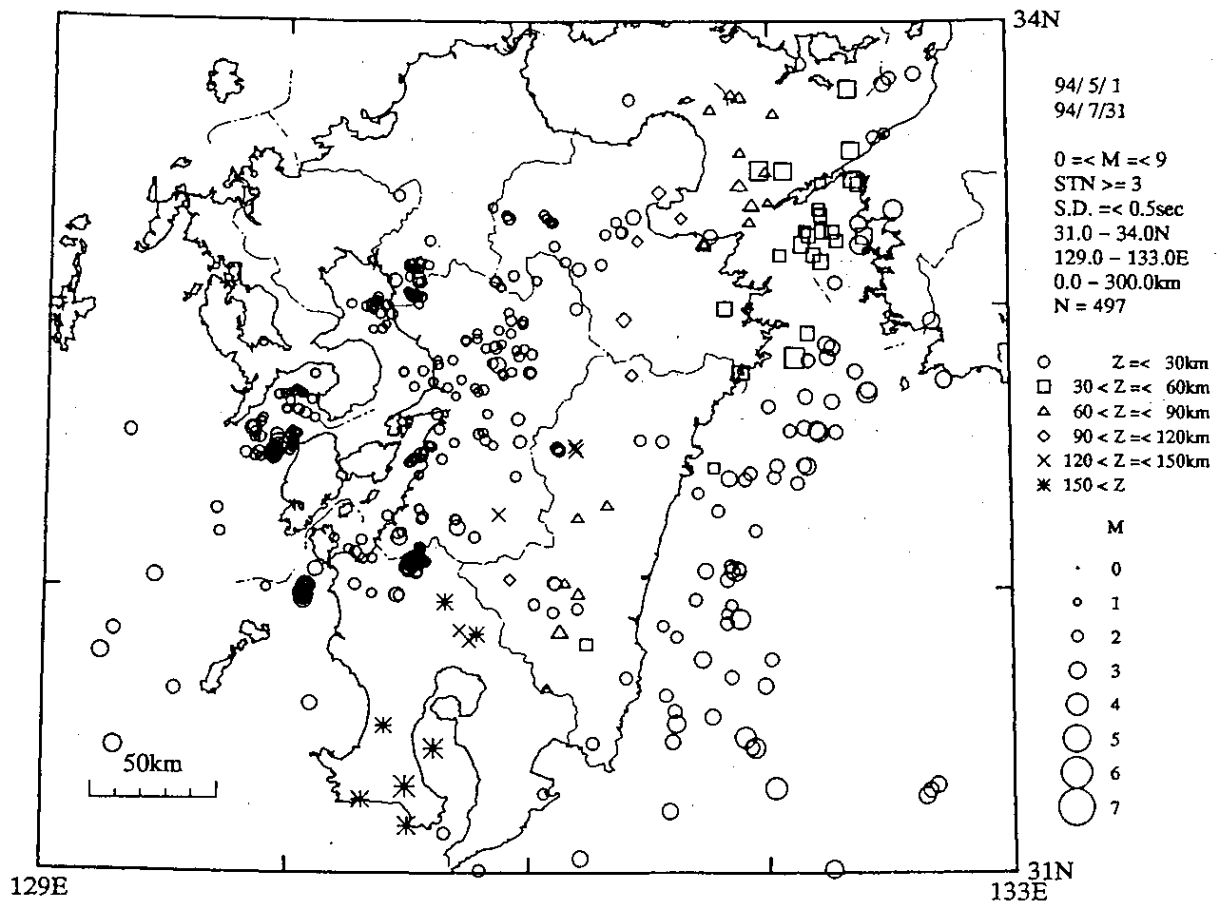
Faculty of Science, Kyushu University

第1図に1994年5月~1994年7月, 第2図に1994年8月~10月の震央分布を示す。この期間, 九州中北部では, 従来からの地震の多発域である有明海, 橘湾~天草灘, 熊本県中部などで微小地震活動がみられた。第3図に計5個の地震の発震機構を示す。得られた解は横ずれまたは正断層で, 9月29日の天草灘の地震を除いてほぼ南北に近い方向に張力軸を持ち, それらの地震については広域応力に従ったものと考えられる。

なお九州南部では, 1994年2月13日の鹿児島県北部の地震(M5.7)の震源域周辺での地震活動が引き続いているほか, 宮崎県南部でも9月7日より顕著な地震活動がみられた。

長崎県, 雲仙・普賢岳の噴火活動は, 1900年11月17日の噴火開始より4年近くを経過した。溶岩ドーム付近では地震活動が活発に続いている。第4図に日別震動回数(10秒以上), 第5図には溶岩ドーム付近の地震のM-T図, 第6図に日別火砕流発生回数を示す。第7図には溶岩ドーム付近の月別震源分布を示す。

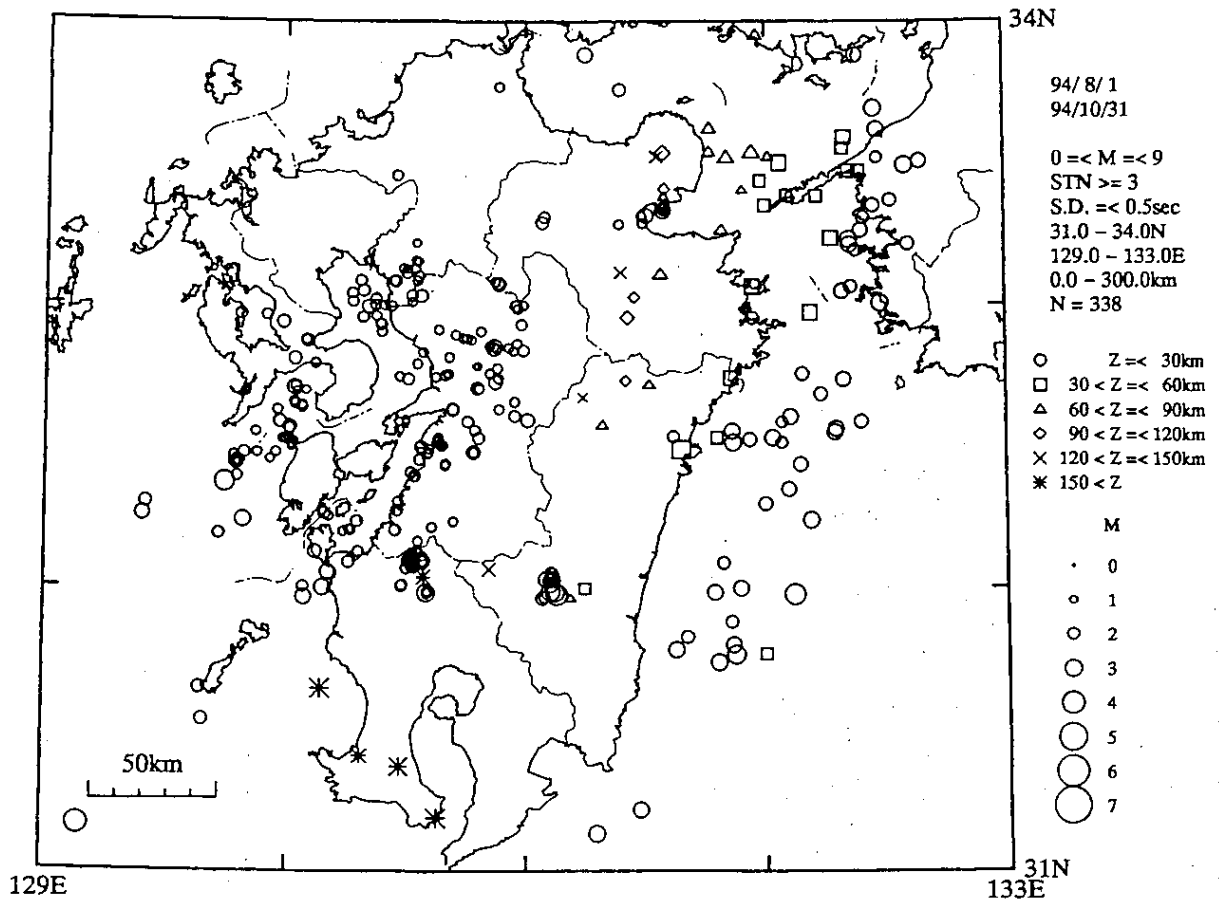
EPICENTER DISTRIBUTION



第1図 震央分布 (1994年5月~7月)

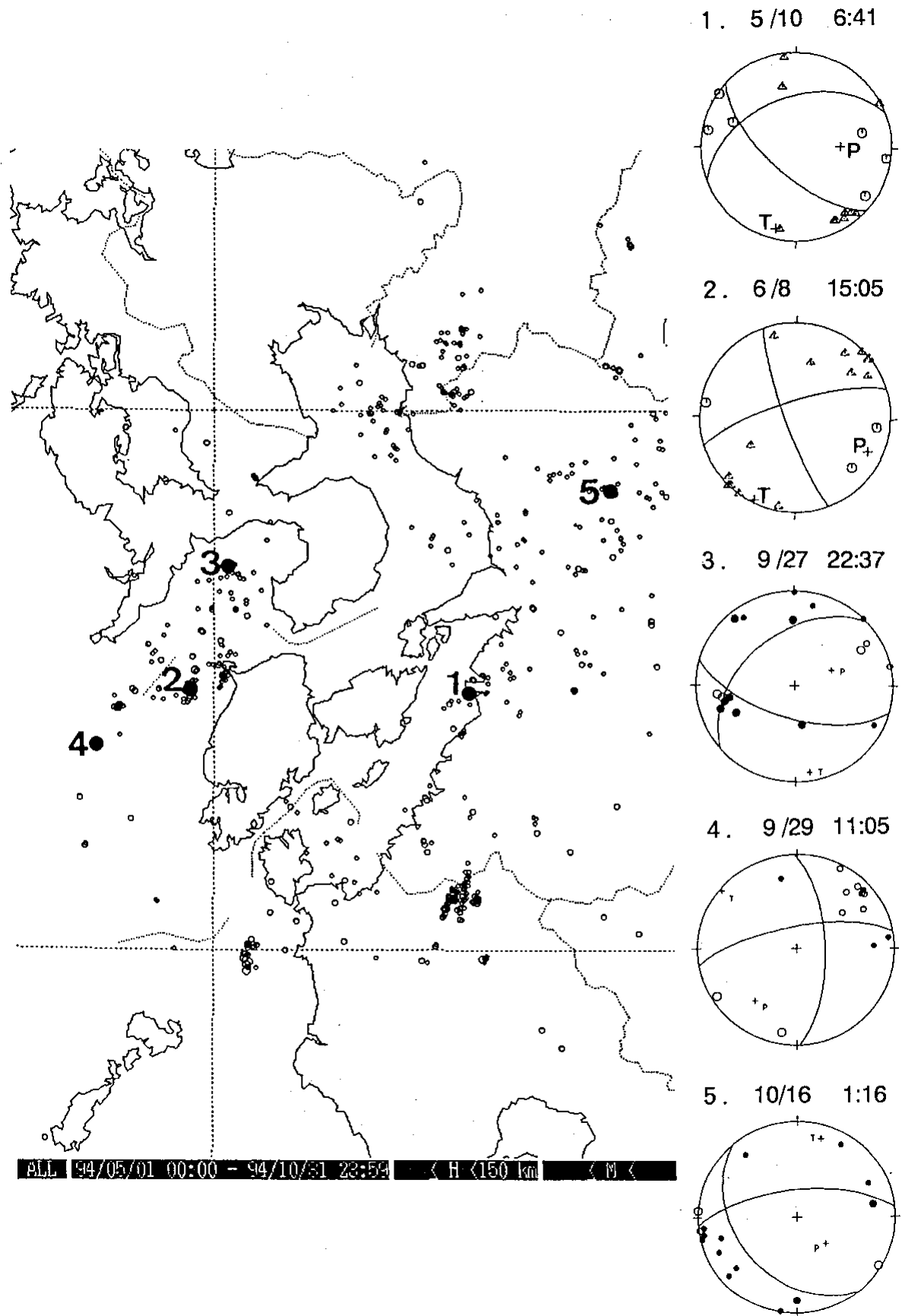
Fig. 1 Epicenter distribution (May-Jul. 1994).

EPICENTER DISTRIBUTION



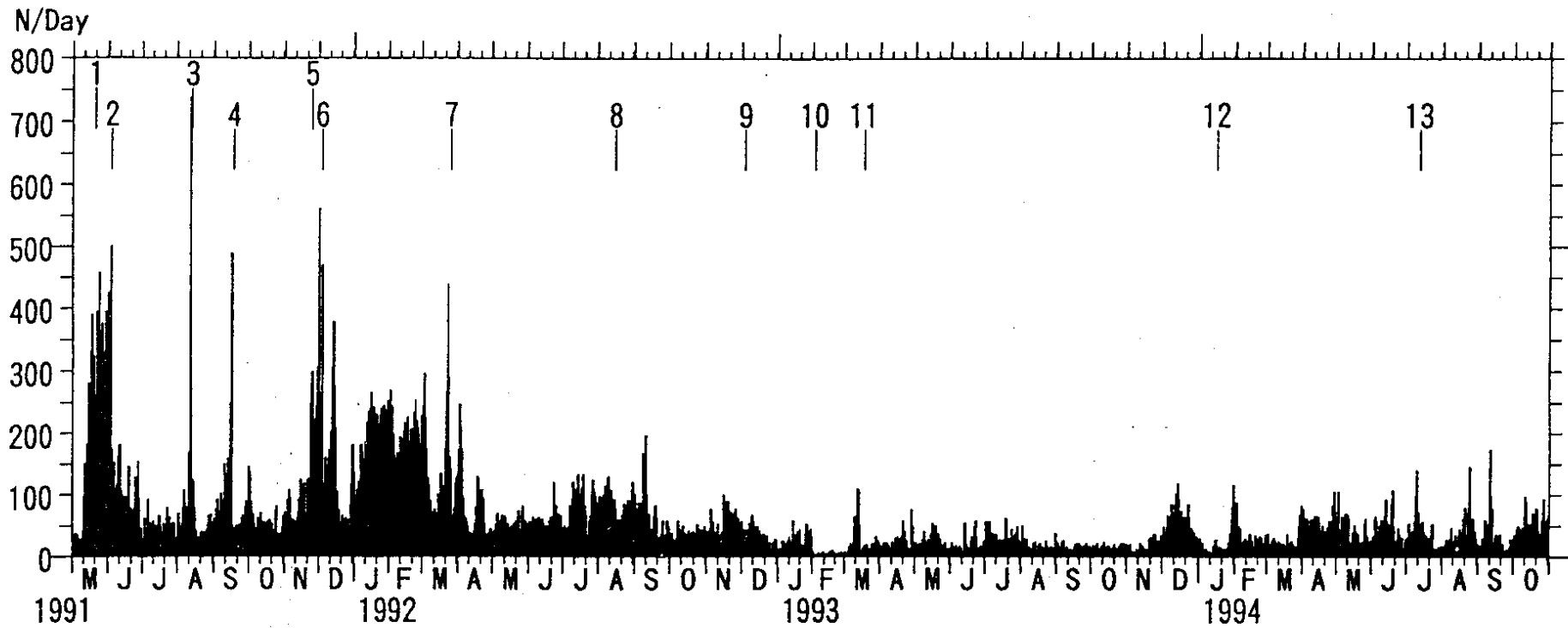
第2図 震央分布 (1994年8月~10月)

Fig. 2 Epicenter distribution (Aug-Oct. 1994).



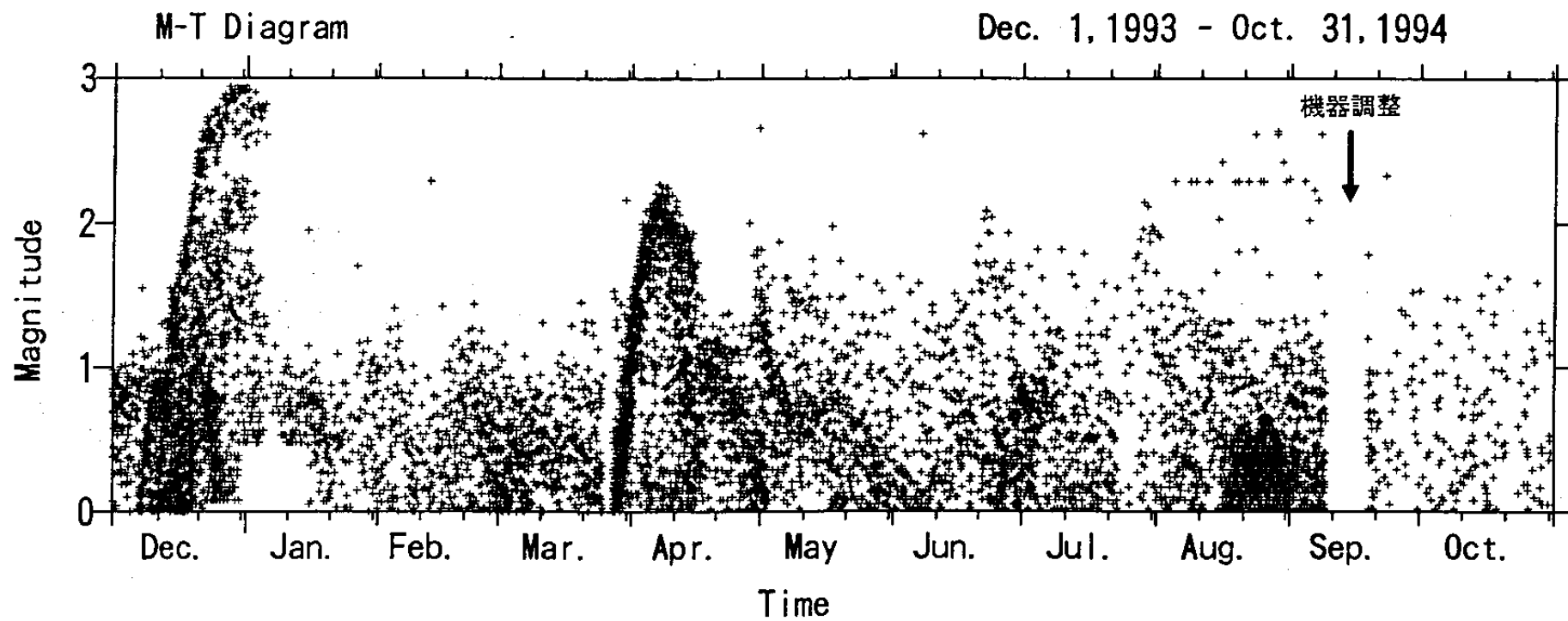
第3図 発震機構（下半球等積投影，黒丸と三角：押し，白丸：引き）

Fig. 3 Focal mechanism solutions. Equal area projection on the lower hemisphere ; triangle and solid circles, up ; open circles, down.



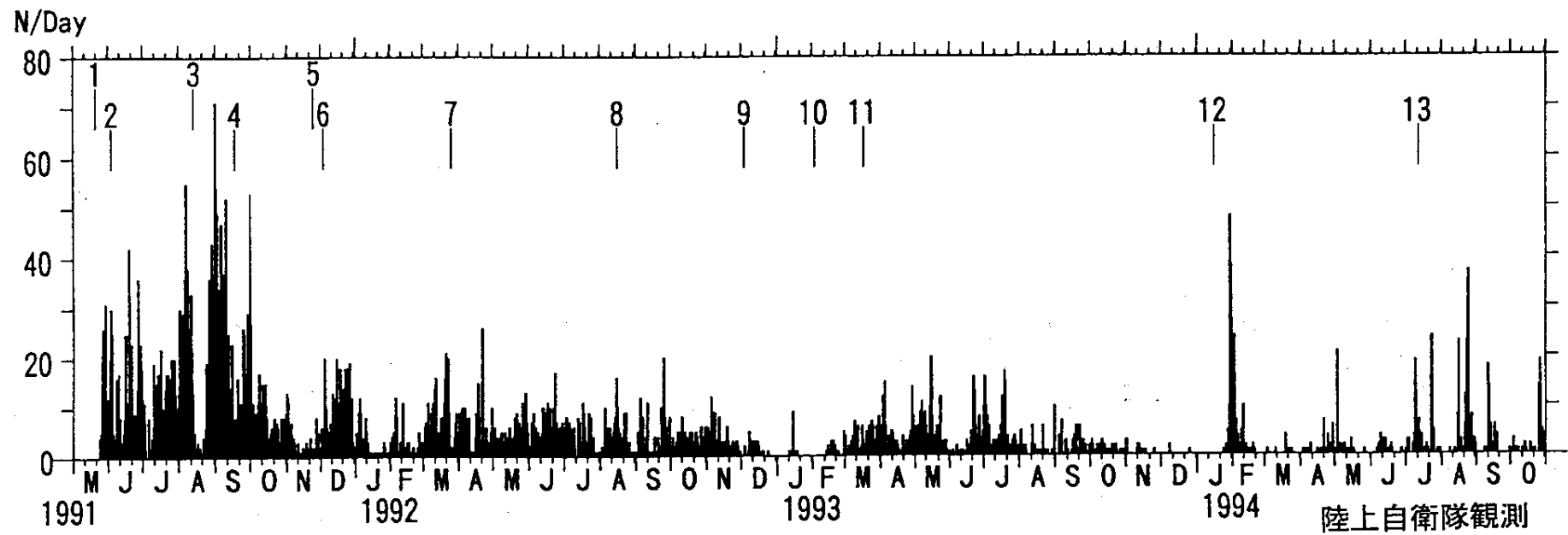
第4図 日別震動回数(1991年5月~1994年10月)。1~13は各溶岩ローブの出現時を示す。

Fig. 4 Daily number of tremor-like signals on the seismic records (durations 10s, Dec. 1993-Oct. 1994). Nos. 1-13 indicate the beginnings of new lava lobe extrusion.



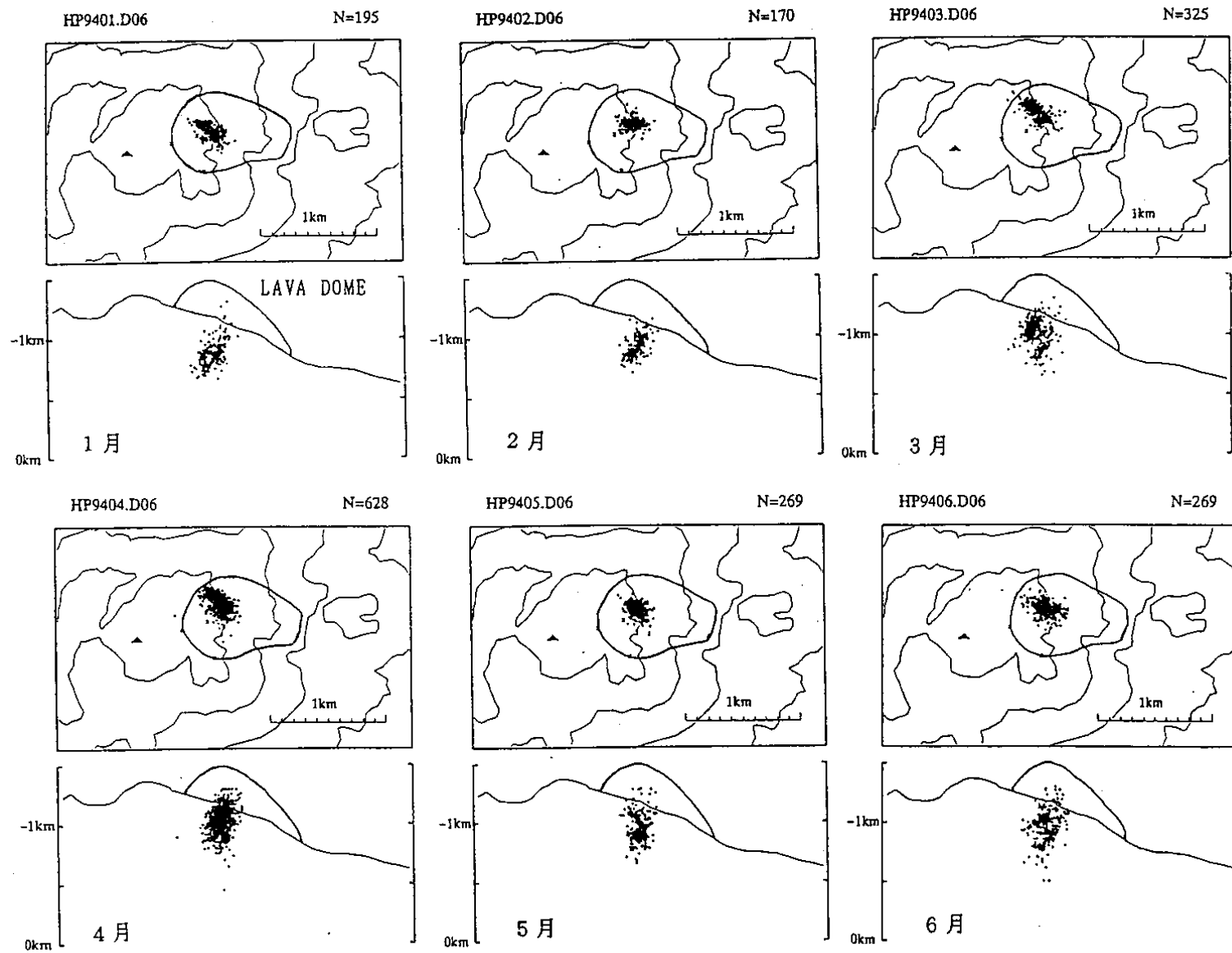
第5図 普賢岳山頂部地震のM - T図 (1993年12月~1994年10月)

Fig. 5 Magnitude-time diagram of the earthquakes in the summit area of Fugen-dake (Dec. 1993-Oct. 1994).



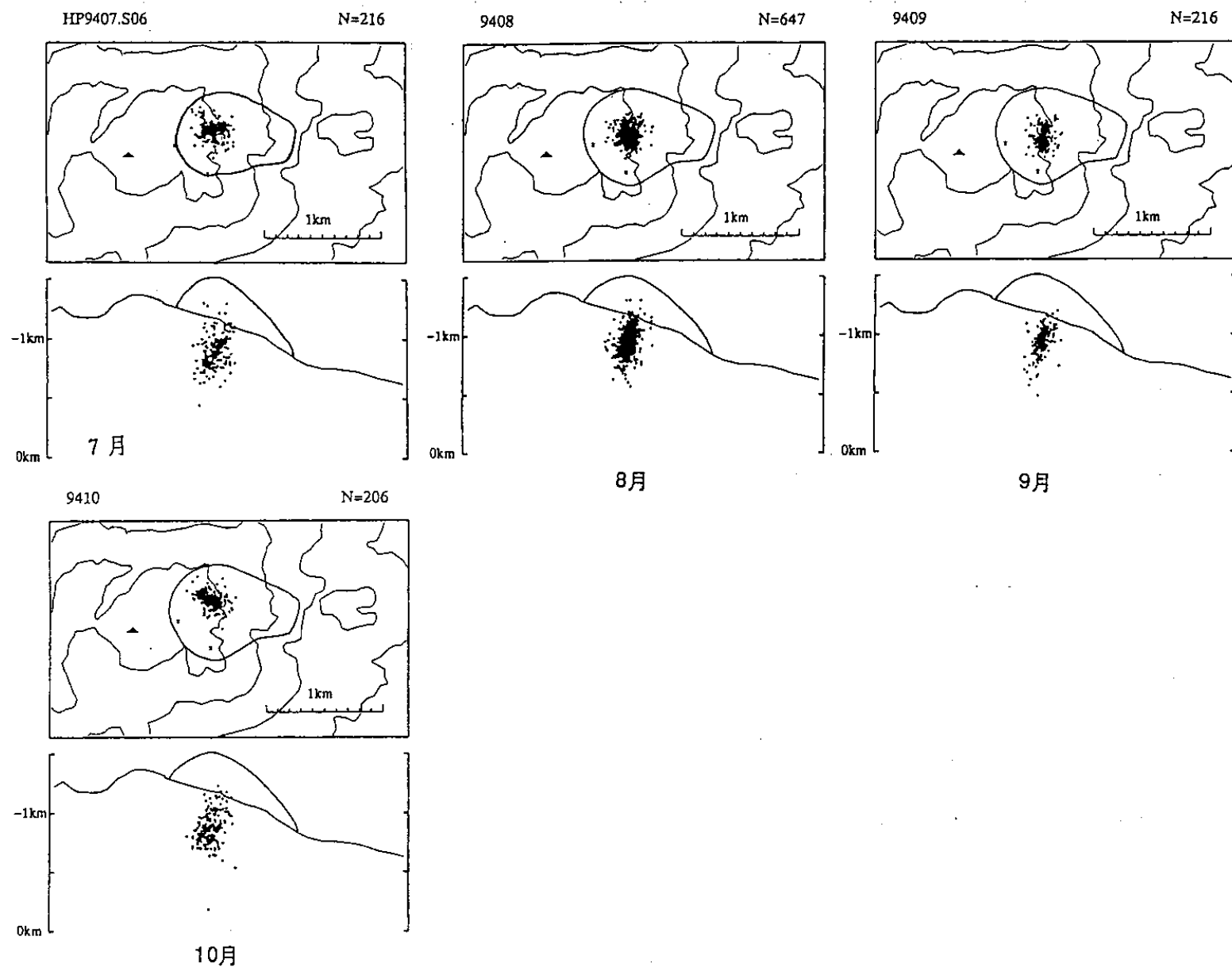
第6図 日別火砕流発生回数(1991年5月~1994年10月)

Fig. 6 Daily number of pyroclastic flows.



第7図 普賢岳山頂部地震の月別震源分布 (1994年1月~10月)

Fig. 7 Monthly distribution of hypocenters during the period Jan-Oct. 1994 in the summit area of Fugen-dake.



第7図 つづき
Fig. 7 (Continued)